

2022 年度:こども園自己評価の報告書 のばたけこども園

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画</p> <p>こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・保育課程 ・ 教育環境の整備 ・ 研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「しなやかな心と体づくり」～子どもの思いに寄り添う子ども理解と援助・一人一人が主体的に遊び友達とのかかわりが豊かになる遊びの環境づくり～を研究テーマに、クラスごとに公開保育等実施し、実践を学び合う機会を持ちながら取り組んだ。 ・ 「子ども月間」「平和月間」「春のつどい」に取り組み、職員間で共通理解しながら、保護者と共に子どもの育ちを共有する機会とした。 ・ アドバイザー研修では、子どもの表現の受け止め方やかかわり方について学び、具体的な支援方法等のアドバイスを受けた。また、造形活動についても学び、様々な素材を通して子ども達の表現活動を豊かにする環境について指導助言を受けた。子ども達の表現から、さらに活動を広げられるポイント等、実践をもとにアドバイスを受け、様々な素材を活かした保育の展開につなげることができた。 ・ 外国籍の保護者に、外国語絵本の読み聞かせをしていただき、多文化に親しむ機会を持った。その他にも、国旗を掲示したり、誕生会でいろいろな国の言葉を知ったり、多文化に触れる環境作りにも取り組んだ。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策や保健指導を通して子どもの健康への意識付けをした。 ・ 体調不良やけがで受診を要する時は、迅速に保護者と連絡を取り合いながら対応していった。 ・ 手洗いの大切さを伝え丁寧に取り組んだ。また、コロナ等の感染状況をコドモンで発信し、情報共有し、早期受診につながるようにした。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月安全点検を実施し施設や遊具の安全に留意した。 ・ 避難訓練を定期的実施し、身を守る行動や保育者の誘導等を確認してきた。午睡時の避難訓練を実施することで、多様な避難方法を学び、課題解決に取り組んだ。 ・ 子どもの飛び出し防止の為、園門内側にフェンスを設置した。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育教諭だけでなく技能の先生と共に、菜園活動に取り組んだ。子ども達が、種まきや苗植えをした野菜の生長を、水やりや草抜きをしながら楽しみに育て、収穫し、クッキング等で味わうことができた。 ・ 学年ごとに様々な野菜の栽培に取り組んだが、うまく育たず断念することもあり、自然を実感する経験につながった。大根は豊作で、年長児は各家庭で味わい、保護者の話題や食への興味につながるようにした。
<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園している子どもの保護者 ・ 地域の子育て家庭 ・ 地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人懇談やクラス懇談を実施し、共に育ちを考えていく機会とした。また、ドキュメンテーションを作成し、遊びの様子を発信をしていく事で、園の教育保育の取り組みへの理解を得られるようにした。 ・ コドモンを活用して行事の案内や参加アンケート等を配信し、相互により情報が分かりやすく伝えられるようにした。 ・ 野畑校区子育てサロン「こんぺいとう」と年長児が野畑小学校にて交流し、手遊びや歌を披露した。実際に園児の姿を見てもらうことで、地域の保護者が子どもの成長への期待を持つ機会になったと思われる。

	る。園内でも地域の子どものとの交流の機会を持つことができたが、まだまだ人数制限等ある中での交流となった。
教育・保育内容 ・養護・健康・人間関係 ・環境・言葉・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・人とのかかわりを大切にしながら、個々の好きな遊びや、集団での高まり等、保育の充実に心掛けた。安心でき、自らが遊びを選択し、友達と共に遊び込める環境づくりを大切にした。 ・クラスの活動をドキュメンテーションで掲示したことで、保育の取り組みを分かりやすく伝えることができた。また、何を伝えるかを模索する中で、保育を振り返り、遊びの展開の見通しを持つことができた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは特定の大人との信頼関係を築いていくことに重点を置き、安心して過ごせる生活の充実に図ってきた。 ・認め合える関係づくりを目標に、支援学校の巡回相談やアドバイザー研修等で助言いただきながら子ども理解について学び、子どもの行動の見方やかかわり方をその都度探りながら、支援につなげている。
職員の資質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊中市教育保育環境ガイドライン」を活用して自己評価を行い、保育の見直しや遊びの環境を見直し、各クラスの保育の充実に取り組んだ。 ・市実施の研修や ZOOM での研修を通して、全職員が様々なテーマの研修を受講し、内容を保育会議等で共有しながら幅広く学び合った。 ・人権研修や園内研修により職員間の交流をしながら、保護者支援、不適切なかかわり等を学び合い、安心安全な保育の提供につなげられるよう取り組んだ。今後も職員のスキル向上を目指して、子ども理解、愛着、支援等引き続き学ぶ機会を充実させていきたい。
幼保こ小中の連携	幼保こ小連絡会に参加し近隣の小学校との情報交換し地域の課題を共有することができた。北緑丘小学校の体験会に5歳児が参加し就学に向けての期待や安心感につなげることができた。
関係者評価の取り組み	評議員会を実施し、園の現状や子どもの様子を見ていただいたり、公開保育で他園の方に参加していただきご意見をいただいたり、保育交流ができる機会となった。また、国の評価アンケートの聞き取りに参加し、評価の意義等の理解が深まった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
子ども理解と保護者支援	クラスの子どもの姿から、子どもの表現やかかわりの姿を議論することで、職員間で子ども理解について学び合う。また保護者の思いに寄り添うには、どのように取り組むのか、具体的な事例をもとに学び合う。
保育課題に沿った園内研修の充実	引き続き環境の充実を目指しながら、子どもの現状から保育課題・研究テーマを設定し、職員間で相互理解を深めながら、園内研修を進めていく。

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立のぼたけこども園

園長名 永富 奈緒美